



今日もスタコの車窓から

高野 さやか (たかの さやか)

東京大学大学院総合文化研究科

庶民の足

インドネシア・スマトラ島のメダン市には、たくさん「スタコ」が道路を走っている。

スタコとは、ここでは小型バスのことだ。正式なインドネシア語でないように、他の地域では通じない。何故そうよぶのか地元の人に聞いてみても、スタコの意味はよくわからない、というのが正直なところらしい。

ことはひとつの目標である。いつまでもスタコに乗っているのは、かつこ悪いことでもあり、不便でもある。

わたしも、ほかの交通手段を確保すべきだろうかと考えた。ぎゅつぎゅつに詰め込まれると、さすがに息苦しい。運転手付きの車は望むべくもないが、バイクタクシーを月極めで雇うという方法だつてある。だが、スタコにはスタコのよさがあるのだ。二年間で運賃は二・五倍になったが、タクシーなどよりはずっと安い。そのつと料金交渉が必要なバイクタクシーに比べて、明朗会計だ。道も覚えられる。明るいうちなら、女性・子どもが多いから安心感があるし、もし不安を感じたら、とり外されているドアからすぐに降りることができ。

印象的な出来事に遭遇することもある。赤ちゃんを抱いたお母さんが、料金を払わずに歩き去ってしまったとき、運転手はあきらめ顔で見送っていた。車が止まる前に、わたしがつい立ち上がって降りようとする、市場帰りのおばさんが「あんた座ってなさいよ」と笑いながら言う。「ここから何番のスタコに乗ればいい?」とたずねることが、会話の糸口になることも。空調の効いた車の窓ガラス越しに見るときは、街の風景も別の場所のように生き生きと感じられるのだ。

というわけでわたしは今日も、1000ルピア札を握りしめ、スタコに乗って出かけるのである。

道路に出れば、色、デザインさまざまスタコが目につく。外装は会社によって異なるが、運転席の内装や前後の窓は、運転手の好みで飾り付けてあり、日本の長距離トラックを思わせる。急発進・急停車は当たり前。しきりにクラクションを鳴らし、接触ギリギリのところをすり抜けていく。近年手ごろな価格の車が登場し、交通量が著しく増加しているメダン市で、乗用車やバイクのドライバーたちはスタコに気を使わないと運転できない。しょ

つちゅう起きる停電で信号が消えているときも、主導権を握るのはスタコたちだ。公共交通機関の整備が不十分なので、庶民の足として大活躍している。乗客は道端で待つていて、外装と番号で目当てのスタコを見つけ、合図して止める。停留所や時刻表はない。後部座席は向かい合ったベンチ状で、ひざを突き合わせて座る。かなり揺れるので、読書や居眠りをしてる人はまず見かけない。降りたいところで運転手に声をかけて知らせ、前にまわって料金を手渡す。市内なら、一人二五〇ルピア(約三五円)だ。

今日は何人乗せたかな?

スタコの運転手にとって最大の関心事は、いかに満員に近い状態で走るか、である。通りの反対側からでも、合図に気が付くと、ずっと待つている。乗っている車がいきなり止まるので、降りる人もいないのに、と不思議に思っている、遠くからゆつくり歩いてくるお客さんがいることに気が付く。市場など人の集まるところでは、しばらく客待ち停車をする。どつ見ても満員でも、いいから乗れ乗れ、と誘うので、乗車拒否するのは乗客の方だ。

助手席に乗り込むと、スタコに何が必要で、何が必要でないか、はつきりと見ることができ。運転席は改造が繰り返され、設備は最小限。速度計などの計器はどれも動いていない。内装は金属板が

むきだしになっている。助手席の窓は、運賃の受け渡しのため常に開けておくので、ドアも外側からだけ開けはよい。いいかげんなようだが、細かいところには独自の工夫がある。微妙なハンドルさばきがとても大事なので、ハンドルはひとまわり小さなものに取り替えられている。ウインカーのレバーはクラクションにつながって、歩行者の注意を引く際などに反射的に使われる。乗客の足元にはスベアタイヤ。釣り銭はダツシユボードの上に並べ、赤信号のあいだに紙幣を整理してポケットにしまう。

乗客の数が、運転手の収入に直接結び付いている。会社には毎日決められた額を車の使用料として支払えばいいからだ。営業は運転手本位。乗客を乗せたまま、ガソリンスタンドにも行く。給油が終わるまで、みんな静かに待つている。慣れしてくると、停留所と運行時間に拘束されている日本のバスが、つれなく思えることさえある。

1000ルピア札を握りしめて

別れ際に「スタコで帰る」と言うと、「気を付けてね」と言われることがある。「スタコに乗ったことなんてないわ」と言う人も多い。用心のため、いつも乗る前には運賃をポケットに準備しておき、財布や携帯電話は出さないようにする。メダン市の若者にとつても、自分のバイクなり車なりを手に入れてスタコから卒業する



黄色のスタコ。ブレーキランプには破損防止のカバーがしてある

メダン市内の様子。ビルの屋上にはテレビ用のパラボラアンテナが並ぶ



別会社のスタコ。新しい車体のものが増えてきている



首都ジャカルタでは見かけない形のバイクタクシーも健在